

業 績 集

2023 年度あゆみ業績

神経

—論文—

1. Nabatame S, Tanigawa J, Tominaga K, Shimono K, Yanagihara K, Imai K, Ando T, Tsuyusaki Y, Araya N, Matsufuji M, Natsume J, Yuge K, Bratkovic D, Arai H, Okinaga T, Matsushige T, Azuma Y, Ishihara N, Miyatake S, Kato M, Matsumoto N, Okamoto N, Takahashi S, Hattori S, Ozono K. Association between cerebrospinal fluid parameters and developmental and neurological status in glucose transporter 1 deficiency syndrome. J Neurol Sci 2023;447.
2. Sawada T, Kido J, Yae Y, Yuge K, Nomura K, Okada K, Fujiyama N, Ozasa S, Nakamura K. Gene therapy for spinal muscular atrophy is considerably effective when administered as early as possible after birth. Mol Genet Metab Rep. 2023;35:100973.
3. Hashimoto K, Yokokawa M, Yamashita D, Yuge K, Otsubo Y. Spinal muscular atrophy type 1 with false negative in newborn screening: A case report. Cureus 2023;15(7):e42382.
4. Nanri D, Yuge K, Goto K, Kimura T, Yae Y, Mizuochi T, Sato R, Itonaga T, Maeda T, Yamashita Y. Onasemnogene abeparvovec treatment after Nusinersen in an infant with spinal muscular atrophy Type 1. Kurume Med J 2022; 69
5. 山下裕史朗. 小児神経学と子どもの心の診療・研究拠点をめざして. 脳と発達 2023; 55: 163.
6. 宮本雄策, 山下裕史朗. 神経発達症児の移行期医療支援について. 脳と発達 2023; 55: 259-61
7. 野村恵子, 木村重美, 遠藤雄策, 山下裕史朗. 「特別支援学校での子どものための福祉避難所開設に関するアンケート調査」報告書. 脳と発達 2023; 55: 372-377
8. 石井 隆大. COVID-19 感染症後の今後の小児保健体制. 小児保健研究. 2023; 82: 1-14
9. 土生川千珠, 村上佳津美, 石井隆大, 柳本嘉時, 井上 健, 岡田あゆみ, 吉田誠司, 竹中義人, 大谷良子, 作田亮一, 田中知絵, 藤井智香子, 重安良恵, 淵上達夫, 渡部泰弘, 藤田之彦, 小柳憲司, 松島礼子, 大堀彰子, 永井 章, 井口敏之, 江島伸興, 永光信一郎. COVID-19 対策での長期休校措置前後の小児心身症関連疾患受診者数の推移. 日本小児科学会雑誌. 2023; 127: 1277-1288

—著書—

1. 山下裕史朗. 注意欠如・多動症. 月刊地域医学. 2023; 37: 25-29
2. 山下裕史朗. 注意欠如多動症. 小児内科. 2023; 55: 848-852
3. 石井隆大, 山下大輔, 吉塚悌子. 小児摂食障害診療ガイドライン (改訂第3版). 子どもの心とからだ. 2023; 32: 396-450

—講演・シンポジウム—

—国内学会—

—シンポジウム—

1. 弓削康太郎. 脊髄性筋萎縮症における評価方法の工夫. 第65回日本小児神経学会学術集会. 2023.5.26 (岡山)
2. 山下裕史朗. 思春期の治療: 薬物療法と心理社会的治療. 第119回日本精神神経学会学術総会. 2023.6.24 (横浜)

ーセミナー

1. 弓削康太郎. SMA に対する 3 つの治療薬の使用経験. 第 126 回日本小児科学会学術集会. 2023.4.16 (東京)

ー一般演題

1. 原 宗嗣, 福井香織, 高瀬隆太, 渡邊順子, 山下裕史朗. 繰り返す熱性けいれんからミオクロニー欠伸でんかんへ移行した 1q44 微小欠失症候群の一例. 第 45 回日本小児遺伝学会学術集会. 2023.1.28 (東京)
2. 高瀬隆太, 満井あかり, 井出水紀, 福井香織, 河野 剛, 輿水江里子, 宮武聡子, 村上良子, 松本直通, 山下裕史朗, 渡邊順子. 複雑型熱性けいれんと知的能力障害を認めた GPI 欠損症の同胞例. 第 45 回日本小児遺伝学会学術集会. 2023.1.29 (東京)
3. 松岡美智子, 松石豊次郎, 永光信一郎, 角間辰之, 内村直尚, 小曾根基裕. 小学生の感情や行動に対する睡眠と生活環境の関連性. 第 41 回日本社会精神医学会. 2023.3.16 (神戸 Web)
4. 石井隆大. 当院で対応している性別違和の 2 例を通して考えるメンタルヘルス. 第 126 回日本小児科学会学術集会. 2023.4.15 (東京)
5. 小池敬義, 山下大輔, 吉塚悌子, 石井隆大, 弓削康太郎, 原 宗嗣, 田代恭子, 渡邊順子, 山下裕史朗. West 症候群における 10 年間の質量分析による尿中、血中メタボローム解析. 第 65 回日本小児神経学会学術集会. 2023.5.25 (岡山)
6. 阪田健佑, 山下大輔, 石井隆大, 弓削康太郎, 小池敬義, 原 宗嗣, 音琴哲也, 森岡基浩, 山下裕史朗. 右内斜視を契機に脳動脈瘤の診断に至った結節性硬化症の 4 歳男児. 第 65 回日本小児神経学会学術集会. 2023.5.26 (岡山)
7. 弓削康太郎, 山下大輔, 八戸由佳子, 石井隆大, 小池敬義, 原 宗嗣, 山下裕史朗. 重度側弯があるにもかかわらず治療薬を risdiplam から nusinersen へ戻した脊髄性筋萎縮症 2 型の成人例. 第 65 回日本小児神経学会学術集会. 2023.5.26 (岡山)
8. 石井隆大, 山下大輔, 弓削康太郎, 小池敬義, 原 宗嗣, 山下裕史朗. 当院における結節性硬化症の画像タイプ別の検証. 第 65 回日本小児神経学会学術集会. 2023.5.26 (岡山)
9. 後藤康平, 弓削康太郎, 八戸由佳子, 原 宗嗣, 木下正啓, 中野慎也, 山下裕史朗. 新生児期に入院加療されたハイリスク新生児の知的発達に関する検討. 第 65 回日本小児神経学会学術集会. 2023.5.26 (岡山)
10. 松岡美智子, 松石豊次郎, 永光信一郎, 角間辰之, 内村直尚, 小曾根基裕. 小学生の感情や行動に影響する因子に関するパス解析結果. 第 119 回日本精神神経学会. 2023.6.23 (横浜)
11. 山下大輔, 石井隆大, 吉塚悌子, 山下裕史朗. 高照度光装置を用いた 3 週間入院プログラムによる睡眠障害の治療効果の検討. 第 41 回日本小児心身医学会学術集会. 2023.9.15 (和歌山)
12. 石井隆大, 山下大輔, 吉塚悌子, 山下裕史朗. アクチグラムの臨床活用: 睡眠障害を伴う起立性調節障害を通して. 第 41 回日本小児心身医学会学術集会. 2023.9.15 (和歌山)
13. 山下大輔, 石井隆大, 吉塚悌子, 安田亮輔, 山下裕史朗, 下川尚子. 毎食嘔吐し徐々に体重減少が進行した 14 歳男児例. 第 41 回日本小児心身医学会学術集会. 2023.9.15 (和歌山)

ー研究会・学会地方会ー

1. 石本隆浩, 山下大輔, 弓削康太郎, 後藤康平, 吉塚悌子, 石井隆大, 高瀬隆太, 福井香織, 小池敬義, 原宗嗣, 渡邊順子, 山下裕史朗. 慢性的な肝酵素/フェリチン高値、運動発達遅滞を認め呼吸障害が進行した 1 歳 5 か月女児. 第 94 回日本小児神経学会九州地方会. 2023.1.8 (Web)

2. 石井隆大. 子どもの睡眠習慣質問票の日本語版(CSHQ-J)の標準化研究と影響する要因の検証. 第752回集談会. 2023.1.18(久留米)
3. 梶原 悠, 山下大輔, 弓削康太郎, 高瀬隆太, 福井香織, 石井隆大, 小池敬義, 原 宗嗣, 橋本和彦, 横川真理, 渡邊順子, 山下裕史朗. 新生児スクリーニングで発見できなかった脊髄性筋萎縮症Ⅰ型の男児例. 第520回日本小児科学会福岡地方会. 2023.3.11(福岡, Hybrid).

ーその他

ー講演

1. 弓削康太郎. 見逃したくない脊髄性筋萎縮症. 第343回筑豊小児科医会勉強会. 2023.1.18(飯塚)
2. 山下裕史朗. オーフアンドラッグ開発プラットフォーム事業. 研究開発の進捗状況 医薬品産業情報研究会. 2023.1.26(久留米)
3. 山下裕史朗. ADHDの基礎知識. ADHD児との付き合い方講座. 2023.1.28(Web)
4. 山下裕史朗. 小児診療は睡眠から攻める～睡眠改善のその先まで考える～. 子どもの眠りを考える オンライン講習会. 2023.1.30(久留米 Web)
5. 原 宗嗣. 臨床開発に向けた考え方と新たな研究開発手法の検索. 福岡バイオコミュニティ希少疾患セミナー. 2023.2.10(久留米)
6. 小池敬義. 当院の難治性てんかんに対する取り組み. 日本新薬株式会社 社内研修会. 2023.2.20(久留米)
7. 弓削康太郎. Advanced SMA患者における微細運動評価. SMA Academy 2023. 2023.2.27(Web).
8. 弓削康太郎. 進行症例における治療法選択の意思決定サポート. SMA Treatment Next Stage. 2023.3.7(Web)
9. 小池敬義. 小児てんかんの診断と連携. 小児てんかん基礎セミナー. 2023.3.13
10. 弓削康太郎. 進行症例における治療法選択の意思決定サポート. 脊髄性筋萎縮症講演会-長期治療戦略と評価の重要性を学ぶ-. 2023.4.24(Web)
11. 弓削康太郎. 進行症例における治療法選択の意思決定サポート. SMA Forum in Ibaraki. 2023.4.26(Web)
12. 弓削康太郎. 小児てんかん患者の睡眠を考える. 子供のてんかんを考える会 in 新潟 2023. 2023.6.9(Web, 新潟)
13. 弓削康太郎. 進行症例における治療法選択の意思決定サポート. 第三回阪神小児SMA講演会. 2023.6.14(Web)
14. 石井隆大. 子ども達の心理社会背景に影響される心身症. 三潞郡学校保健会研修会. 2023.6.15(三潞)
15. 弓削康太郎. 進行症例における治療法選択の意思決定サポート. MS, SMA Conference in 信州. 2023.6.20(Web)
16. 山下裕史朗. 脊髄性筋萎縮症セミナー～SMAの拡大新生児スクリーニングの課題と展望～. 2023.6.22(Web)
17. 弓削康太郎. 進行症例における治療法選択の意思決定サポート. SMA Expert Seminar. 2023.6.23(Web)
18. 弓削康太郎. 進行症例における治療法選択の意思決定サポート. SMA Forum in OKAYAMA. 2023.7.5(Web).
19. 山下裕史朗. 小児診療は睡眠から攻める～睡眠改善のその先まで考える～. 第224回筑後小児科医会セミナー. 2023.7.6(久留米)

20. 弓削康太郎. 小児てんかん患者の睡眠障害について. 小児てんかんと睡眠障害について考える会. 2023.7.11 (Web)
21. Kotaro Yuge. An adult patient with SMA returned from risdiplam to nusinersen despite severe scoliosis. 2023 Asia Pacific SMA Forum. 2023.7.15(TAIPEI)
22. 山下裕史朗. 観察研究「新生児マススクリーニング検体を用いたライソゾーム病, 重症複合免疫不全症, 脊髄性筋萎縮症の早期診断と治療」について. 第131回周産期症例検討会. 2023.7.19
23. Kotaro Yuge. An adult patient with SMA returned from risdiplam to nusinersen despite severe scoliosis. 2023 International Spinal Muscular Atrophy Conference: Era of Disease-Modifying Therapies for Treating SMA. 2023.8.19 (TAIPEI, WEB)
24. 山下裕史朗. 小児診療は睡眠から攻める～睡眠改善のその先まで考える～. 長崎県小児科医会学術講演会. 2023.8.24 (Web)
25. 弓削康太郎. ドラベ症候群の治療を考える. てんかんを考える会 in Fukuoka～DREを考える～. 2023.8.25 (Web)
26. 山下裕史朗. 乳幼児健康診査：発達に関する話題を中心に. 令和5年度乳幼児健康診査の医師研修会. 2023.9.26 (大牟田)
27. 小池敬義. 小児てんかん外来診療のコツ. 第227回筑後小児科医会セミナー. 2023.11.21 (久留米)
28. 山下裕史朗. 小児診療は睡眠から攻める～睡眠改善のその先まで考える～. 第351回筑豊小児科医会勉強会. 2023.11.30 (飯塚)
29. 弓削康太郎. SMA診療の展開と新生児スクリーニング. 九州・四国新生児スクリーニング研究会. 2023.12.16 (愛媛)
30. 小池敬義. 小児てんかんの概要と取り組み. エーザイ株式会社 社内研修. 2023.12.18 (久留米)

ー記念誌、新聞、テレビ、ラジオ

1. 山下裕史朗. 神経発達症児の移行期医療支援(トランジション). ハッピーママくらぶ No.79
2. 山下裕史朗. カリズマティック・アダルトの必要性. ハッピーママくらぶ No.80
3. 山下裕史朗. 生き生き働くおとなになってもらうために必要なこと. ハッピーママくらぶ No.81
4. 山下裕史朗. 診断・治療の進歩が著しい病気：脊髄性筋萎縮症(SMA). ハッピーママくらぶ No.82
5. 山下裕史朗. くるめサマートリートメント・プログラム～4年ぶりの再開～. ハッピーママくらぶ No.83
6. 山下裕史朗. 発達障害児の早期発見ポイントはありますか?. 日本小児神経学会ホームページ 小児神経Q&A
7. 弓削康太郎. 患者を生きる きょうだいが見る世界. 朝日新聞. 2023.3.3
8. 山下裕史朗. ADHD児童に行動療法 久留米大学病院中心の短期プログラム. 西日本新聞. 2023.9.19 (筑後版)
9. 山下裕史朗. くるめSTP. EQUAL No.205. 2023.10.4

10. 山下裕史朗. 多様性が活きる社会へ. 大学院ニューズレター 第109号. 2023.12

ー研究費・受賞ー

1. 原 宗嗣. 文部科学研究費 基盤研究(C)(新規)「交感神経細胞の分化転換がレット症候群の脳心関連システム制御異常の原因か?」94万円(代表)
2. 小池敬義. 森永奉仕会研究奨励金「West症候群の発達予後、支援状況の研究」50万円
3. 弓削康太郎. 文部科学研究費 基盤研究(若手)「レット症候群のグレリン投与による治療メカニズムの解明～睡眠障害を改善できるか～」88万円(代表)
4. 石井隆大. AMED成育疾患克服等総合研究事業「ICTと医療・健康・生活情報を活用した「次世代型子ども医療支援システム」の構築に関する研究」80万円(分担)
5. 石井隆大. The Japanese version of the children's sleep habits questionnaire (CSHQ-J): A validation study and influencing factors. 2023年度優秀論文賞

循環器

ー論文ー

1. Suda K, Tahara N, Bekki M, Nakamuara T, Honda A, Kishimoto S, Kagiya Y, Iemura M, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y. Ongoing vascular inflammation evaluated by 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in patients long after Kawasaki disease. J Nucl Cardiol 2023;30(1):264-275. doi: 10.1007/s12350-022-03041-1.
2. Kato T, Miura M, Kobayashi T, Kaneko T, Fukushima N, Suda K, Maeda J, Shimoyama S, Shiono J, Hirono K, Ikeda K, Sato S, Numano F, Mitani Y, Waki K, Ayusawa M, Fukasawa R, Fuse S, and The Z-Score Project 2nd Stage Study Group. Analysis of coronary arterial aneurysm regression in patients with Kawasaki disease by aneurysm severity: Factors associated with regression. J Am Heart Assoc 2023;12:e022417.
3. Japanese Society of Fetal Cardiology, Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, Inamura N, Horigome H, Takigiku K, Shibuya K, Yoda H, Kawazu Y, Hirono K, Maeno Y, Suda K, Kawataki M, Matsui M, Mitsushita N, Yamamoto Y, Kaji T, Kanagawa T, Nishikawa H, Kataoka K, Yokoyama T, Ishii Y, Kim K, Takahashi-Igari M, Kawasaki Y, Kan N, Nagata H, Oyama K, Wada K, Ikeda T. Guidelines for Fetal Echocardiography (Second Edition). J Pediatr Cardiol Card Surg 2023;7:73-137.
4. Teramachi Y, Hornberger LK, Howley L, van der Velde ME, Al-Aklabi M, Eckersley L. Impact of neonatal intervention on left ventricular performance in Ebstein's anomaly and tricuspid valve dysplasia. J Am Soc Echocardiogr 2023;23:00642-9.
5. Tsuda K, Kishimoto S, Kagiya Y, Koteda Y, Suda K. Pitfall in Acute Care of Kawasaki Disease: Anomalous Origin of the Left Coronary Artery from the Pulmonary Artery—Secondary Publication. J Pediatr Cardiol Card Surg 2023;7:36-40.

ー特別講演・シンポジウム・パネルディスカッションー

ー国内学会

1. 坂崎尚徳, 丹羽公一郎, 武田充人, 小野 博, 高月晋一, 堀米仁志, 犬塚 亮, 福島裕之, 齋藤秀輝, 立野 滋, 市田路子, 糸井利幸, 小垣滋豊, 脇 研自, 赤木禎治, 須田憲治, 廣野恵一, 白神一博. Eisenmenger症候群のダウン症成人期の予後 第24回日本成人先天性心疾患学会学術集会 松山市 2023.1.14-1.16
2. 須田憲治, 津田恵太郎, 清松光輝, 前田靖人, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 籠手田雄介, 家村素史 心房中隔欠損症カテーテル治療手技中の完全房室ブロックとその要因 シンポジウム「ASD/VSD閉鎖デバイスと不整脈」第33回日本先天性心疾患インターベンション学術集会 2023.1.16 (東京)

3. 寺町陽三, 須田憲治. レベルⅠからレベルⅡ 胎児心エコーを身につけよう. JSFC-4 胎児心エコー検査 右心系異常を見逃さないために. 第34回日本心エコー図学会学術集会 2023.4.21-23 (岐阜)
4. 須田憲治, 津田恵太郎, 前田靖人, 高瀬隆太, 財満康之, 寺町陽三, 庄嶋賢弘, 家村素史. 経皮的心房中隔欠損症閉鎖術におけるデバイス選択. 第59回日本小児循環器学会 会長要望シンポジウム 2023.7.6 (横浜)
5. 須田憲治. 先天性冠動脈対側冠動脈洞起始症の全国調査. 第59回日本小児循環器学会. 委員会企画シンポジウム 2023.7.8 (横浜)

－研究会・学会地方会－

1. 須田憲治. 川崎病急性期から遠隔期の合併症up-to-date. 第18回岡山川崎病・小児循環器病研究会 2023.11.30 (岡山)

－国内学会（口演）－

1. 寺町陽三, 前野泰樹, 津田恵太郎, 高瀬隆太, 籠手田雄介, 須田憲治. 心筋の前収縮期運動と房室弁閉鎖の時相差での心機能評価: Dual ドプラ法を用いて 第29回日本胎児心臓病学会 2023.2.24-25. (大阪)
2. 寺町陽三, 太田光紀, 津田恵太郎, 高瀬隆太, 籠手田雄介, 財満康之, 庄嶋賢弘, 須田憲治. 総肺静脈還流異常症(下心臓型)の静脈管ステント狭窄を肝静脈ドップラーで評価する. 第34回日本心エコー図学会 学術集会 2023.4.21-23 (岐阜)
3. 寺町陽三, 前野泰樹, 津田恵太郎, 高瀬隆太, 籠手田雄介, 須田憲治. 胎児心エコーにおける心筋の前収縮期運動と房室弁閉鎖の時相差との心機能との比較: Dual ドプラ法を用いて. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.6 (横浜)
4. 高瀬隆太, 津田恵太郎, 寺町陽三, 籠手田雄介, 渡邊順子, 須田憲治. 学校心臓検診で指摘されたLQT3とBrugada症候群のオーバーラップ家系における遺伝カウンセリングの重要性. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.6 (横浜)
5. 家村素史, 前田靖人, 津田恵太郎, 須田憲治. 動脈管開存症(PDA)コイル閉鎖術後、成長とともに留置コイルの断裂を認めた一例. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.7 (横浜)
6. 笹栗誠, 高瀬隆太, 小竹由, 津田恵太郎, 坂口廣高, 家村素史, 須田憲治, 河野剛. 当院におけるCOVID-19関連小児多系統炎症性症候群の経験と川崎病患者との比較. 第43回日本川崎病学会学術集会 2023.9.30 (大阪)

－国際学会（ポスター）－

1. Teramachi Y. Time Discrepancies Between Pre-Systolic Myocardial Movement and Atrioventricular Valve Closure in Fetal Echocardiogram by Dual-gate Doppler. 8th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery (ワシントン) 2023.8.29
2. Takase R. Characteristics And Comparison Of Mis-c And Kawasaki Disease Patients. A Single-center Study In Japan. . 8th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery (ワシントン) 2023.8.29
3. Maeda Y. Selective coronary angiography via transradial access in young children. . 8th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery (ワシントン) 2023.8.30

－国内学会（ポスター）－

1. 家村素史, 前田靖人, 須田憲治. 病理解剖所見を得ることができた成人Failed Fontan の一例. 第24回日本成人先天性心疾患学会 2023.1.13 (愛媛)
2. 前田靖人, 津田恵太郎, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 籠手田雄介, 家村素史, 須田憲治. ゴア心房中隔欠損オクルーダーのワイヤフレームフラクチャーの要因の検討 第33回先天性心疾患カテーテル治療学会 2023.1.16 (東京)
3. 津田恵太郎, 清松光貴, 高瀬隆太, 寺町陽三, 籠手田雄介, 須田憲治. 低酸素血症を呈した上大静脈一左房還流をAVP2でカテーテル塞栓を行った2症例 第33回先天性心疾患カテーテル治療学会 2023.1.16 (東京)
4. 清松光貴, 津田恵太郎, 高瀬隆太, 寺町陽三, 籠手田雄介, 財満康之, 庄嶋賢弘, 須田憲治. TCPS術後の重度チアノーゼのため、門脈体循環シャントに対し経カテーテル的血管塞栓術を施行した一例 第33回先天性心疾患カテーテル治療学会 2023.1.16 (東京)
5. 須田憲治, 津田恵太郎, 清松光貴, 前田靖人, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 籠手田雄介, 家村素史, 須田憲治. 心房中隔欠損症カテーテル治療用の新規閉鎖栓導入が治療適応と成績に及ぼす影響. 第126回日本小児科学会 2023.4.14 (東京)

6. 前田靖人, 山川祐輝, 津田恵太郎, 清松光貴, 鍵山慶之, 高瀬隆太, 寺町陽三, 家村素史, 須田憲治. 心房細動で救急搬送された基礎疾患不明の3ヶ月乳児にICD植込みを行うべきか? 第59回日本小児循環器学会 2023.7.6 (横浜)
7. 津田恵太郎, 高瀬隆太, 寺町陽三, 籠手田雄介, 須田憲治. 大動脈縮窄症に対する新生児・乳児期初回PTA介入に対する有効性の検討. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.7 (横浜)
8. 清松光貴, 津田恵太郎, 前田靖人, 高瀬隆太, 寺町陽三, 財満康之, 庄嶋賢弘, 須田憲治. カテーテル治療の必要な心房中隔欠損症における出生体重の血行動態に対する影響. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.7 (横浜)
9. 山川祐輝, 前田靖人, 新谷雄介, 庄嶋賢弘, 須田憲治. 前腕からの静脈採血後に指摘された上腕仮性動脈瘤に対して血管形成術を施行した乳児例. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.7 (横浜)
10. 山木勇人, 清松光貴, 津田恵太郎, 前田靖人, 高瀬隆太, 寺町陽三, 財満康之, 庄嶋賢弘, 須田憲治. 門脈体循環シャントを有し、TCPS術後に酸素飽和度低下を認めた左側相同の2例. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.7 (横浜)
11. 庄嶋賢弘, 財満康之, 籠手田雄介, 寺町陽三, 高瀬隆太, 津田恵太郎, 須田憲治, 田山栄基. 小児期および成人期部分肺静脈還流異常症に対する手術成績. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.7 (横浜)
12. 財満康之, 庄嶋賢弘, 津田恵太郎, 高瀬隆太, 寺町陽三, 籠手田雄介, 須田憲治, 田山栄基. 自己弁温存基部置換術11年後に急速拡大した弓部大動脈瘤を認めたLoeys-Dietz syndromeの1例. 第59回日本小児循環器学会 2023.7.8 (横浜)

ーその他ー

1. 須田憲治. Opening Remarks. 小児循環器Webセミナー CHD治療における最適な治療選択 -低侵襲の治療をより多くのこども達へ- 2023.9.9
2. 前田靖人. 久留米大学での心房中隔欠損症カテーテル治療の現状と挑戦. 小児循環器Webセミナー CHD治療における最適な治療選択 -低侵襲の治療をより多くのこども達へ- 2023.9.9
3. 須田憲治. 子供の心臓病診療最前線～胎児心臓病から大人まで～. 久留米大学循環器病研究所市民公開講座 2023.11.26 (久留米)
4. 須田憲治. ADOファミリーにおけるPDA閉鎖デバイスの使い分け. PDA Advanced Course. 2023.11.28 (オンライン)
5. 須田憲治. 川崎病急性期から遠隔期の合併症up-to-date. 第18回岡山川崎病・小児循環器病研究会 2023.11.30 (岡山)

ー研究費ー

1. 須田憲治. AMED難治性疾患実用化研究事業(吉兼班)「川崎病冠動脈瘤を予防するための急性期難治例予測診断法の開発研究」(R5年度)
2. 須田憲治. 厚生労働省難治性疾患政策研究事業(白石班)「先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の救命率の向上と生涯にわたるQOL改善のための総合的研究」(R5年度)
3. 須田憲治. 文部科学省科学研究費基盤研究(C)「低出生体重と内臓脂肪が学童の心血管機能に及ぼす影響の検討」(R5年度)
4. 寺町陽三. 文部科学省科学研究費若手研究「サイトカイン及びmRNA遺伝発現解析で迫る先天性完全房室ブロック発症機序解明」(R5年度)
5. 高瀬隆太. 文部科学省科学研究費若手研究「エピゲノム解析による免疫グロブリン療法抵抗性川崎病の機序解明」(R5年度)
6. 鍵山慶之. 文部科学省科学研究費若手研究「在胎不当過小児への成長ホルモン過剰による血管機能障害および動脈硬化前病変の調査」(R5年度)
7. 前田靖人. 文部科学省科学研究費若手研究「導出18誘導心電図を用いた肺高血圧症の診断方法の」(R5年度)

免疫膠原病

—論文—

【英文】

1. Ando T, Abe Y, Yamaji K, Nishikomori R, Tamura N. A case of cryopyrin-associated periodic syndrome due to somatic mosaic mutation complicated with recurrent circinate erythematous psoriasis. *Mod Rheumatol Case Rep.* 2023.
2. Andou M, Tominaga M, Nishikomori R, Gotou K, Komatsu N, Matsuoka M, Kawayama T, Hoshino T. A Case of STAT1 Mutations in Chronic Mucocutaneous Candidiasis Diagnosed in an Adult. *Intern Med.* 2023.
3. Hojo K, Furuta T, Komaki S, Yoshikane Y, Kikuchi J, Nakamura H, Ide M, Shima S, Hiyoshi Y, Araki J, Tanaka S, Ozono S, Yoshida A, Nobusawa S, Morioka M, Nishikomori R. Systemic inflammation caused by an intracranial mesenchymal tumor with a EWSR1::CREM fusion presenting associated with IL-6/STAT3 signaling. *Neuropathology.* 2023;43(3):244-251.
4. Kanazawa N, Ishii T, Takita Y, Nishikawa A, Nishikomori R. Efficacy and safety of baricitinib in Japanese patients with autoinflammatory type I interferonopathies (NNS/CANDLE, SAVI, And AGS). *Pediatr Rheumatol Online J.* 2023;21(1):38.
5. Kuchitsu Y, Mukai K, Uematsu R, Takaada Y, Shinojima A, Shindo R, Shoji T, Hamano S, Ogawa E, Sato R, Miyake K, Kato A, Kawaguchi Y, Nishitani-Isa M, Izawa K, Nishikomori R, Yasumi T, Suzuki T, Dohmae N, Uemura T, Barber GN, Arai H, Waguri S, Taguchi T. STING signalling is terminated through ESCRT-dependent microautophagy of vesicles originating from recycling endosomes. *Nat Cell Biol.* 2023;25(3):453-466.
6. Kurata S, Nawata A, Morinishi T, Ohta K, Katafuchi E, Hisano S, Tanaka S, Hisaoka M, Koike J, Nishikomori R, Nakayama T. Immunoglobulin G deposition on proximal tubules and the tubular basement membrane in acute tubular injury complicated with focal segmental glomerulosclerosis (FSGS): A possible prediction tool for subclinical FSGS. *Ann Diagn Pathol.* 2023;66:152154.
7. Maeda A, Tsuchida N, Uchiyama Y, Horita N, Kobayashi S, Kishimoto M, Kobayashi D, Matsumoto H, Asano T, Migita K, Kato A, Mori I, Morita H, Matsubara A, Marumo Y, Ito Y, Machiyama T, Shirai T, Ishii T, Kishibe M, Yoshida Y, Hirata S, Akao S, Higuchi A, Rokutanda R, Nagahata K, Takahashi H, Katsuo K, Ohtani T, Fujiwara H, Nagano H, Hosokawa T, Ito T, Haji Y, Yamaguchi H, Hagino N, Shimizu T, Koga T, Kawakami A, Kageyama G, Kobayashi H, Aoki A, Mizokami A, Takeuchi Y, Motohashi R, Hagiyaama H, Itagane M, Teruya H, Kato T, Miyoshi Y, Kise T, Yokogawa N, Ishida T, Umeda N, Isogai S, Naniwa T, Yamabe T, Uchino K, Kanasugi J, Takami A, Kondo Y, Furuhashi K, Saito K, Ohno S, Kishimoto D, Yamamoto M, Fujita Y, Fujieda Y, Araki S, Tsushima H, Misawa K, Katagiri A, Kobayashi T, Hashimoto K, Sone T, Hidaka Y, Ida H, Nishikomori R, Doi H, Fujimaki K, Akasaka K, Amano M, Matsushima H, Kashino K, Ohnishi H, Miwa Y, Takahashi N, Takase-Minegishi K, Yoshimi R, Kirino Y, Nakajima H, Matsumoto N. Efficient detection of somatic UBA1 variants and clinical scoring system predicting patients with variants in VEXAS syndrome. *Rheumatology (Oxford).* 2023.
8. Moriya K, Nakano T, Honda Y, Tsumura M, Ogishi M, Sonoda M, Nishitani-Isa M, Uchida T, Hbib M, Mizoguchi Y, Ishimura M, Izawa K, Asano T, Kakuta F, Abukawa D, Rinchai D, Zhang P, Kambe N, Bousfiha A, Yasumi T, Boisson B, Puel A, Casanova JL, Nishikomori R, Ohga S, Okada S, Sasahara Y, Kure S. Human RELA dominant-negative mutations underlie type I interferonopathy with autoinflammation and autoimmunity. *J Exp Med.* 2023;220(9).
9. Mukai T, Ida H, Ueki Y, Nishikomori R. Editorial: A new frontier in translational research on autoinflammatory diseases - various aspects of innate immunity on human diseases. *Front Immunol.*

2023;14:1147202.

10. Okada E, Morisada N, Horinouchi T, Fujii H, Tsuji T, Miura M, Katori H, Kitagawa M, Morozumi K, Toriyama T, Nakamura Y, Nishikomori R, Nagai S, Kondo A, Aoto Y, Ishiko S, Rossanti R, Sakakibara N, Nagano C, Yamamura T, Ishimori S, Usui J, Yamagata K, Iijima K, Imasawa T, Nozu K. Corrigendum to "Detecting MUC1 Variants in Patients Clinicopathologically Diagnosed With Having Autosomal Dominant Tubulointerstitial Kidney Disease" *Kidney International Reports*, Volume 7, Issue 4, April 2022, Pages 857-866. *Kidney Int Rep*. 2023;8(5):1127-1129.
11. Ono R, Tsumura M, Shima S, Matsuda Y, Gotoh K, Miyata Y, Yoto Y, Tomomasa D, Utsumi T, Ohnishi H, Kato Z, Ishiwada N, Ishikawa A, Wada T, Uhara H, Nishikomori R, Hasegawa D, Okada S, Kanegane H. Novel STAT1 Variants in Japanese Patients with Isolated Mendelian Susceptibility to Mycobacterial Diseases. *J Clin Immunol*. 2023;43(2):466-478.
12. Yamazaki S, Izawa K, Matsushita M, Moriichi A, Kishida D, Yoshifuji H, Yamaji K, Nishikomori R, Mori M, Miyamae T. Promoting awareness of terminology related to unmet medical needs in context of rheumatic diseases in Japan: a systematic review for evaluating unmet medical needs. *Rheumatol Int*. 2023;43(11):2021-2030.

【和文】

1. 木村 拓, 田中征治, 日吉祐介, 荒木潤一郎, 西小森隆太, 山下裕史朗. EBウイルス腸炎による持続する下痢を初発症状とした腎移植後リンパ増殖症の女児例. *久留米医学会雑誌*. 2023;86 (5-6): P131-138.
2. 西小森隆太, 井手水紀, 田中征治. 【SLEとAAVの新展開】SLEと先天性免疫異常症. *腎と透析*. 2023; 94 (6): 892-897. DOI: 10.24479/kd.0000000767
3. 西小森隆太, 田中征治, 井澤和司. 【小児の治療方針】リウマチ・膠原病 自己炎症性疾患. *小児科診療*. 2023; 86 (春増刊): 315-320. DOI: 10.34433/pp.0000000236
4. 西小森隆太, 田中征治, 井手水紀, 北城恵史郎. 【これでよくわかる自己炎症性疾患】自己炎症性疾患の診断 自己炎症性疾患発見の歴史. *小児科診療*. 2023; 86 (3): 247-251. DOI: 10.34433/pp.0000000074

ー講演・シンポジウムー

ー 1. 国際学会 なし

ー 2. 国内学会

1. 西小森隆太. 【自己炎症症候群】自己炎症症候群とは? 自己炎症症候群 総論. 第75回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 2023.9.16-17 (沖縄)
2. 西小森隆太. 自己炎症性疾患の診断とその対応. 第122回日本皮膚科学会総会. 2023.6.1-4 (横浜)

ー 3. 研究会・学会地方会

1. 西小森隆太. 特別講演 自己炎症性疾患の最新の知見: 新ガイドライン、国際自己炎症性疾患学会の知見を含めて. 第4回岐阜免疫・感染・川崎病フォーラム. 2023.7.20 (岐阜市／WEB・Hybrid開催)
2. 西小森隆太. 特別講演 不明熱の診療 全身性特発性関節炎と関連疾患の鑑別を含めて. 第8回宮崎県IL-6研究会. 2023.9.26 (宮崎市／WEB・Hybrid開催)
3. 西小森隆太. 特別講演 自己炎症性疾患における移行期医療について. 自己炎症性疾患・小児リウマチにおける生涯管理に向けた医療を考える会. 2023.11.10 (神戸市／WEB・Hybrid開催)

4. 西小森隆太. 特別講演 不明熱の診療－診療提示を中心として. 第18回高知小児循環器・川崎病・免疫研究会. 2023.11.16 (高知市)
5. 西小森隆太. 特別講演 日常診療に潜む自己炎症性疾患 (小児、成人を含めて症例ベースの検討を中心に). 日常診療に潜む自己炎症性疾患in山梨～繰り返す発熱から疑う～. 2023.11.21 (WEB開催)
6. 西小森隆太. 日常診療に潜む自己炎症性疾患を知ろう！～臨床的特徴と診療の実際. Rheumatology Forum ～成人から小児までClinical Question～. 2023.12.1 (WEB開催)
7. 西小森隆太. 自己炎症性疾患総論. 自己炎症性疾患友の会主催講演会. 2023.12.9 (WEB開催)

－学会・研究会－

－ 1. 国際学会

なし

－ 2. 国内学会

1. 新居寛子, 三木浩和, 高橋真美子, 住谷龍平, 大浦雅博, 曾我部公子, 丸橋朋子, 原田武志, 藤井志朗, 安倍正博, 中村信元, 岩佐武, 西小森隆太. 周期性の発熱, 胸背部痛をきたした家族性地中海熱の女性例 AYA世代患者における多職種連携の重要性. 第266回徳島医学会学術集会. 2023.2.12 (徳島)
2. 東陽三, 向井純平, 日吉祐介, 荒木潤一郎, 田中征治, 西小森隆太, 山下裕史朗. 抗原凝集抗体で診断した腸管出血性大腸菌O121感染に伴う溶血性尿毒症症候群 (HUS). 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (東京)
3. 白木真由香, 三輪友紀, 門脇紗織, 井澤和司, 八角高裕, 西小森隆太, 大西秀典. A20ハプロ不全症に関する全国疫学調査. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (東京)
4. 日衛嶋栄太郎, 仁平寛士, 新井勝大, 工藤孝広, 岩間達, 水落建輝, 十河剛, 梶恵美里, 清水泰岳, 竹内一朗, 伊藤夏希, 安田亮輔, 乾あやの, 恵谷ゆり, 西小森隆太, 八角高裕, 井澤和司, 滝田順子. 小児潰瘍性大腸炎の診断における Integrin $\alpha v \beta 6$ 自己抗体の有用性に関する多施設共同研究. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (東京)
5. 井上祐三朗, 酒井良子, 井上永介, 光永可奈子, 清水正樹, 杉原毅彦, 田中孝之, 松下雅和, 森雅亮, 吉藤元, 西小森隆太, 宮前多佳子. 疫学1: RA/関節型JIAの治療 指定難病データを用いた関節型若年性特発性関節炎および高安動脈炎の医療実態の検討. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2023.4.24-26 (福岡)
6. 日高由紀子, 西小森隆太, 井田弘明. 自己炎症症候群とその他の疾患 全身症状を伴い慢性炎症が持続する IL-36Ra欠損症の一例. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2023.4.24-26 (福岡)
7. 井手水紀, 北城恵史郎, 田中征治, 日高由紀子, 井田弘明, 武井修治, 西小森隆太. 小児期発症の全身性強皮症の2例. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2023.4.24-26 (福岡)
8. 栗屋智就, 齋藤潤, 西小森隆太, 萩原正敏. iPS細胞由来ミクログリアを用いた Aicardi-Goutieres 症候群の中枢神経免疫病態の解析. 第65回日本小児神経学会学術集会. 2023.5.25-27 (岡山)
9. 田中征治, 倉田悟子, 小松誠和, 荒木潤一郎, 中野慎也, 井手水紀, 日吉祐介, 財津亜友子, 西小森隆太. 間質性腎炎ブドウ膜炎症候群 (TINU) における腎組織への TNF α の関与. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会. 2023.6.29-7.1 (大阪)
10. 日高由紀子, 古賀浩嗣, 菅野景子, 秋葉純, 西小森隆太, 前田彩花, 土田奈緒美, 内山由理, 桐野洋平, 松本直通, 古賀丈晴, 名嘉真武國, 井田弘明. 皮疹先行後, 耳介腫脹, 強膜炎を認めた VEXAS 症候群の一例. 第66回九州リウマチ学会. 2023.9.16-17 (北九州)

11. 前田由可子, 道倉雅仁, 石川秀樹, 伊藤秀一, 中村好一, 日衛嶋栄太郎, 井澤和司, 西小森隆太, 八角高裕. 自己炎症症候群－全国調査の現状と注意すべき小児リウマチ類似疾患－Here, There and Everywhere 本邦初の慢性再発性多発性骨髄炎(CRMO) 全国疫学調査. 第32回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2023.10.13-15 (埼玉)
12. 北城恵史郎, 日吉祐介, 井手水紀, 荒木潤一郎, 田中征治, 西小森隆太. 当院におけるサイレントループス腎炎の臨床経過. 第32回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2023.10.13-15 (埼玉)
13. 大植啓史, 日衛嶋栄太郎, 井澤和司, 宮本尚幸, 仁平寛士, 本田吉孝, 山本修司, 樋口浩和, 山東奈津子, 岩田直也, 荻野諒, 平田惟子, 西谷真彦 [伊佐], 中長摩利子, 西小森隆太, 八角高裕, 滝田順子. A20ハプロ不全症に合併する炎症性腸疾患3例の臨床的特徴に関する検討. 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2023.10.20-22 (宮城)
14. 日衛嶋栄太郎, 仁平寛士, 村本雄哉, 新井勝大, 工藤孝広, 岩間達, 水落建輝, 十河剛, 梶恵美里, 清水泰岳, 竹内一朗, 伊藤夏希, 安田亮輔, 乾あやの, 恵谷ゆり, 西小森隆太, 八角高裕, 井澤和司, 塩川雅広, 滝田順子. 小児潰瘍性大腸炎の診断における Integrin $\alpha v \beta 6$ 自己抗体の有用性に関する多施設共同研究. 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2023.10.20-22 (宮城)

－研究費－

1. 西小森隆太. AMED・難治性疾患実用化研究事業「乾燥ろ紙血プロテオーム解析を用いた原発性免疫不全症診断の効率化研究」(研究開発分担者・継続) 60万円
2. 西小森隆太. AMED・ゲノム創薬基盤推進研究事業「MEFV 遺伝子の網羅的なVUS機能的アノテーションと新規 Ex vivo assay を用いた患者細胞機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びパイリンインフラマソーム活性化機構解明」(研究開発分担者・継続) 50万円
3. 西小森隆太. AMED・難治性疾患実用化研究事業「インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立」(研究開発分担者・新規) 令和5年度配分なし
4. 西小森隆太. 厚生労働科研費・難治性疾患政策研究事業「自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究」(研究代表者・新規) 657万円
5. 西小森隆太. 厚生労働科研費・難治性疾患政策研究事業「原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究」(研究分担者・新規) 100万円
6. 西小森隆太. 文部省科学研究費(基盤研究C)「細胞工学的手法によるエカルディ・グティエール症候群の中枢神経系炎症の機序解明」(研究代表者・継続) 100万円
7. 西小森隆太. 文部省科学研究費(基盤研究C)「小児期発症自己免疫性肝疾患の新生児バイオマーカーと病因遺伝子の探索」(研究分担者・継続) 10万円
8. 西小森隆太. 文部省科学研究費(基盤研究C)「一次繊毛KIF7分子の関節炎への役割の検討と治療への応用」(研究分担者・新規) 10万円

代謝・遺伝

－論文－

1. Fukuda T, Ito T, Hamazaki T, Inui A, Ishige M, Kagawa R, Sakai N, Watanabe Y, Kobayashi H, Wasaki Y, Taura J, Imamura Y, Tsukiuda T, Nakamura K. Blood glucose trends in glycogen storage disease type Ia: A

cross-sectional study. J Inherit Metab Dis. 2023 Jul;46(4):618-633. doi: 10.1002/jimd.12610. Epub 2023 Jun 14. PubMed PMID: 37114839.

2. 福井香織, 高瀬隆太, 渡邊順子. 成人期に精神症状が強くなり、栄養療法の見直しで改善したプロピオン酸血症症例. 特殊ミルク情報 (先天性代謝異常症の治療) (0914-7993) 58号 2023;58:40-43

ー講演・シンポジウムー

ー国内学会ー

1. 渡邊順子. 「ライソゾーム病と遺伝カウンセリング～早期診断の意義と他科連携の重要性～」人類遺伝学会題68回大会. 第14回アジアパシフィック人類遺伝学会 (APCHG). 第22回東アジア人類遺伝学会連合 (EAUHGS). 2023.10.11-14 (東京)

ー講演会ー

1. 渡邊順子. 言語の遅れとムコ多糖症Ⅱ型. ムコ多糖症Ⅱ型 Weekly 講演会～経験者から伝えたいムコ多糖症Ⅱ型の臨床像～ 2023.12.11 (久留米 web)

ー学会発表ー

ー国際学会ー

1. Fukui K, Takahashi T, Masanari H, Uchikura A, Watanabe M, Nagashima H, Kakuma T, Watanabe Y, Yamashita Y, Yoshino M. Moving towards a novel therapeutic strategy for hyperammonemia that targets glutamine metabolism. The 6th Asian Congress on Inherited Metabolic Disease. 2023.3.22-24 (Bangkok, Thailand)
2. Watanabe Y, Takase R, Kawano G, Mitsui A, Fukui K, Koshimizu E, Miyatake S, Matsumoto N, Murakami Y. Two sibling cases of GPI deficiency presenting with a complex febrile seizure and intellectual disability. SSIEM Annual Symposium 2023. 2023.8.29-9.1 (Jerusalem, Israel)
3. Takase R, Sasaguri S, Tsuda K, Kiyomatsu K, Teramachi Y, Kawano G, Suda K. Characteristics And Comparison Of Mis-c And Kawasaki Disease Patients. A Single-center Study In Japan. 8th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. 2023.8.29 (Washington, D.C. USA)
4. Takase R, Fukui K, Tsumura N, Kato K, Hara M, Mizuochi T, Sudo T, Watanabe Y. Three cases of Cowden's syndrome/ PTEN Hamartoma Tumor Syndrome were diagnosed in different ways. Human Genetics Asia 2023. 2023.10.11-14 (Tokyo)

ー国内学会ー

1. 福井香織, 高瀬隆太, 渡邊順子, 山下裕史朗. 2q13領域の微細欠失とNPHP1遺伝子内欠失合併によるネフロン癆の一例. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (東京)
2. 高瀬隆太, 津田恵太郎, 寺町陽三, 籠手田雄介, 渡邊順子, 須田憲治. 学校心臓検診で指摘されたLQT3とBrugada症候群のオーバーラップ家系における遺伝カウンセリングの重要性. 第59回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2023.7.6-8 (横浜)
3. 松石登志哉, 福井香織, 興梠雅彦, 佐藤哲司, 稲垣二郎, 安井昌博, 渡邊順子. 新規ENG変異を認めた肺動脈瘤を伴う遺伝性出血性毛細血管拡張症の小児兄妹例. 第47回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 2023.7.7-9 (松本)
4. Takase R, Fukui K, Watanabe Y. Our experience of MPSII screening and a case report of early initiation of ERT at 3 months of age. 第64回日本先天代謝異常学会学術集会. 2023.10.5-7 (大阪)
5. 福井香織, 松石登志哉, 藤川紘志朗, 渡邊順子. 頻回の鼻出血を契機に診断され、肺動脈瘤のカテーテル治療を要した遺伝性毛細血管拡張症の小児兄妹例. 第46回日本小児遺伝学会学術集会. 2023.12.8-9 (那覇)

6. 福井香織, 高瀬隆太, 沼田早苗, 吉里俊幸, 渡邊順子. 久留米大学病院における遺伝カウンセリングの現状と問題点. 第29回出生前から小児期にわたるゲノム医療フォーラム. 2023.11.5 (久留米)
7. 高瀬隆太, 福井香織, 渡邊順子. 異なる契機で診断に至ったCowden症候群/PTEN過誤腫症候群の3例. 第46回日本小児遺伝学会学術集会. 2023.12.8-9 (沖縄)
8. 武藤 愛, 堀之内崇士, 木下正啓, 福井香織, 高瀬隆太, 渡邊順子, 日吉祐介, 田中征治, 近藤慧一, 瀬山理恵, 内山由理, 松本直通, 吉里俊幸. 胎児期に下部尿路閉鎖と羊水過少を来たし、FLNA遺伝子の新規変異が判明したOtopalatodigital syndrome type 2 (OPD2) の同胞2症例.
9. 第29回出生前から小児期にわたるゲノム医療フォーラム. 2023.11.5 (久留米)

－研究会・地方会

1. 高瀬隆太, 福井香織, 渡邊順子. 3か月より酵素補充療法を開始したムコ多糖症Ⅱ型の1例. 第37回日本小児脂質研究会. 2023.12.2 (北九州)

－研究費・受賞－

1. 渡邊順子. 分担研究者 令和5年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「ライソゾーム病、ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における早期診断・早期治療を可能とする診療提供体制の確立に関する研究」責任者: 奥山虎之
2. 高瀬隆太. 文部科学省科学研究費若手研究「エピゲノム解析による免疫グロブリン療法抵抗性川崎病の機序解明」令和5年度
3. 芳野 信. 文部科学省科学研究費基盤研究(C)「生体内低分子化合物による窒素再利用を介した高アンモニア血症の新規治療法の開発」令和5年度
4. 福井香織. Best Presenter Award 受賞 「Moving towards a novel therapeutic strategy for hyperammonemia that targets glutamine metabolism」The 6th Asian Congress on Inherited Metabolic Disease

血液

－論文－

1. Oda K, Ito Y, Yamada A, Yutani S, Itoh K, Ozono S. Evaluation of the Immunological Response of Childhood Cancer Patients Treated with a Personalized Peptide Vaccine for Refractory Soft Tissue Tumor: A Four-Case Series. Kurume Med J 2023; 68:2,157-163. doi: 10.2739/kurumemedj.MS682012. Epub 2023 May 12. PMID: 37183020.
2. Hojo K, Furuta T, Komaki S, Yoshikane Y, Kikuchi J, Nakamura H, Ide M, Shima S, Hiyoshi Y, Araki J, Tanaka S, Ozono S, Yoshida A, Nobusawa S, Morioka M, Nishikomori R. Systemic inflammation caused by an intracranial mesenchymal tumor with a EWSR1::CREM fusion presenting associated with IL-6/STAT3 signaling. Neuropathology 2023 ;43: 3, 244-251. doi: 10.1111/neup.12877. Epub 2022 Nov 3. PMID: 36328767.
3. Ozono S, Sakashita K, Yoshida N, Kakuda H, Watanabe K, Maeda M, Ishida Y, Manabe A, Taga T, Muramatsu H. A nationwide survey of late effects in survivors of juvenile myelomonocytic leukemia in Japan. Pediatr Blood Cancer 2023;70: 2, e30126. doi: 10.1002/pbc.30126. Epub 2022 Dec 10. PMID: 36495260.
4. Nagao A, Tokugawa T, Matsuo Y, Shirayama R, Morishita E, Nozima M, Kinai E, Nishida Y, Fukutake K. The length of the sanitary napkins can be used as a handier index than pictorial blood loss assessment chart to predict the heavy menstrual bleeding. J Obstet Gynaecol Res 2023 ;49: 7, 1838-1845. doi: 10.1111/

jog.15664.

5. 大武瑞樹, 大園秀一, 大石早織, 満尾美穂, 中川慎一郎, 山下裕史朗. 早期に多発脳転移を来した左足原発乳児線維肉腫の1例. 小児科臨床 2023; 76: 4, 547-551
6. 川村みゆき, 王丸陽光, 大園秀一, 石 文人, 名嘉真武國. 【気をつけるべき小児の腫瘍～悪性腫瘍を見逃さない～】治療 当科における乳児血管腫治療の現状と治療法の選択. 皮膚病診療 2023; 45: 4, 315-320
7. 大園秀一. 【特集】骨髓増殖性腫瘍 (MPN) と類縁疾患 若年性骨髓単球性白血病の病態と治療. 血液内科 2023; 87: 5, 512-518
8. 大園秀一. 医学・医療の最前線シリーズ 小児がん医療における進歩と展望. 久留米医学会雑誌 2023 (印刷中)
9. Nogami K, Taki M, Matsushita T, Kojima T, Oka T, Ohga S, Kawakami K, Sakai M, Suzuki T, Higasa S, Horikoshi Y, Shinozawa K, Tamura S, Yada K, Imaizumi M, Ohtsuka Y, Iwasaki F, Kobayashi M, Takamatsu J, Takedani H, Nakadate H, Matsuo Y, Matsumoto T, Fujii T, Fukutake K, Shirahata A, Yoshioka A, Shima M; J-HIS2 study group. Clinical conditions and risk factors for inhibitor-development in patients with haemophilia: A decade-long prospective cohort study in Japan, J-HIS2 (Japan Hemophilia Inhibitor Study 2). Haemophilia 2022; 28: 5, 745-759. doi: 10.1111/hae.14602. (2022 年度報告漏れ)

ー講演・シンポジウムー

ー全国学会・地方会などのシンポジスト

1. 大園秀一. フォローアップ手帳のアプリ開発. 2023.6.17 ハートリンクワーキングプロジェクト 第7回小児がんフォローアップ研究助成成果発表シンポジウム (新潟市)
2. 大園秀一. QOL・長期フォローアップ. 2023年度日本小児血液・がん学会 教育セミナー 講演 2023.7.2 (Web)
3. 大園秀一. 小児がん治療の現状と課題. JCCG小児がんサバイバー大規模観察研究 市民公開シンポジウム ～小児がん治療後をより良く生きるために～ 2023.11.3 (オンライン: Zoom Webinar)

ー講演会ー

1. 松尾陽子. 血友病B治療の変遷. Alprolix Webinar Vol.1.2023.4.19 (web)
2. 松尾陽子. 現状の保因者健診とこれからの治療について. 西日本Hemophilia Life seminar. 2023.5.20 (大阪)
3. 松尾陽子. 産婦人科の先生方に知って頂きたい血友病保因者の事. 産婦人科医と血友病診療連携セミナー in 沖縄. 2023.8.4 (沖縄)
4. 松尾陽子. 使用経験から振り返るオルプロリクスの有用性. オルプロリクス発売9周年記念講演会. 2023.8.25 (福岡)
5. 松尾陽子. 血友病保因者の現状と課題. Hemophilia Web Seminar. 2023.8.30 (web)
6. 松尾陽子. 血友病保因者の現状と課題. 女性の止血異常を考える会～保因者・vWDの視点で～ 2023.9.6 (web)
7. 松尾陽子. 血友病保因者のマネジメント. 第2回HOPE Next. 2023.9.23 (大阪)
8. 大園秀一. 地域が主役の小児・AYA世代がん診療. 第350回 筑豊小児科医会勉強会 2023.10.26 (飯塚市)
9. 松尾陽子. 血友病保因者の現状と課題. 第13回北海道血友病学術講演会. 2023.11.4 (北海道)

10. 松尾陽子. 血友病保因者の現状と課題～産婦人科の先生方に知って頂きたい血友病保因者の事～. 血友病保因者診療連携の会in SAGA. 2023.2023.11.24 (佐賀)
11. 大園秀一. 小児移植医療におけるトランジション. 2023年12月2日 小児造血幹細胞移植患者のトランジション(移行期支援)令和5年度 造血幹細胞移植推進拠点病院 中四国ブロックセミナー(オンライン: Zoom Webinar)

—学会・研究会演題—

—国内学会—

1. 小川皓太郎, 大園秀一, 島田 翔, 満尾美穂, 中川慎一郎, 向井純平, 山下裕史朗. 重症度スコアによる集中治療あるいは重症室管理を要した血液腫瘍症例の後方視的研究. 第126回日本小児科学会学術集会 2023.4.14-16 (東京)
2. 島田 翔, 満尾美穂, 中川慎一郎, 大園秀一, 山下裕史朗. 寛解導入療法後の骨髄抑制中に急性腹症を合併した急性骨髄性白血病の2症例. 第126回日本小児科学会学術集会 2023.4.14-16 (東京)
3. 松尾陽子. 血友病保因者の実態調査; 中間報告. 第45回日本血栓止血学会学術集会. 2023.6.15-17 (北九州)
4. 松尾陽子, 吉里俊幸. 血友病保因者の実態調査; 妊娠・出産に関する中間報告. 第75回日本産婦人科学会学術講演会. 2023.8.6 (東京)
5. Shuichi Ozono, Hideki Nakayama, Yuhki Koga, Souichi Suenobu, Reiji Fukano, Yasuhiro Okamoto, Shouichi Ohga, Hiroshi Moritake, Tetsuo Saito, and Kenta Murotani. Secondary malignant neoplasms among childhood acute lymphoblastic leukemia survivors treated using the Kyushu-Yamaguchi Children's Cancer Study Group protocols. 65th Annual Congress of the Japanese Society of Pediatric Hematology and Oncology (第65回日本小児血液・がん学会学術集会) 30th, Sept. 2023 (Sapporo city)
6. 島田 翔, 満尾美穂, 中川慎一郎, 大園秀一. 初診時、両側肺多発転移を認めた縦隔原発絨毛癌の一例. 第65回小児血液・がん学会学術集会 2023.9.29-10.1 (札幌)
7. 満尾美穂, 島田 翔, 大石早織, 中川慎一郎, 大園秀一. 再発多発転移を認めた難治性骨肉腫に対し Gemcitabine・Docetaxel 併用化学療法が有効であった1例 2023.9.29-10.1 (札幌)
8. 大園秀一, 中川慎一郎, 満尾美穂, 稲田浩子. 先天性骨髄性白血病3例における神経発達系の晩期合併症. 第85回日本血液学会学術集会 2023.10.13 (東京)

—研究会・学会地方会—

1. 大園秀一, 中山秀樹, 古賀友紀, 岡本康裕, 深野玲司, 下之段秀美, 末延聡一, 西 眞範, 大賀正一, 盛武 浩. 九州・山口小児がん研究グループ (KYCCSG) 急性リンパ性白血病 (ALL) プロトコールにおける二次がんの現状. 第28回九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会 2023.1.7 (Web開催)
2. 明井孝弘, 大園秀一, 島田 翔, 満尾美穂, 中川慎一郎. 寛解導入療法時に致死性肺出血を合併した急性前骨髄性白血病の一例. 第13回日本血液学会九州地方会 2023.3.11 (福岡市: Hybrid開催)
3. 島田 翔, 大園秀一, 満尾美穂, 中川慎一郎, 山下大輔, 山下裕史朗. 放射線誘発海綿状血管腫に伴う側頭葉てんかんを認めた1例. 第521回日本小児科学会福岡地方会例会 (一般演題). 2023.6.10 (福岡市)
4. 島田 翔, 満尾美穂, 中川慎一郎, 大園秀一. 初発時に縦隔・肝臓に多発転移を認めた膝芽腫の一例. 第97回九州・沖縄ブロック 小児がん拠点病院テレビ会議 症例検討会

－研究費・受賞－

1. 大園秀一. 令和5年度 日本医療研究開発機構（AMED）革新的がん医療実用化研究事業「若年性骨髄単球性白血病（JMML）に対する標準的化学療法の確率を目指した第2相臨床試験」の開発. 課題管理番号：23ck0106855h0001 研究開発分担者（班長：村松秀城）
2. 松尾陽子. 文部科学省研究費 若手研究 血友病保因者の心身のケアを目的とした包括的診療を可能とする連携システムの構築. 令和3年度～令和5年度 研究代表者
3. 大園秀一. 令和5年度科学研究費助成事業 基盤研究（C）「小児と思春期の筋肉量の評価に関する研究」課題番号 23K10776 研究分担者（代表：中山秀樹）
4. 松尾陽子. 令和5年度科学研究費助成事業 基盤研究（C）「学童期血友病児の口腔内出血と口腔疾患を予防する包括的口腔ケアプログラムの開発」課題番号 21K10873 研究分担者（代表：青野広子）

－その他

1. 大園秀一. 厚生労働省委託事業 令和4年度1回 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会（LCAS）ファシリテーター 2023.2.18（さいたま市：Web研修会）
2. 大園秀一. 厚生労働省委託事業 令和4年度第1回 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会（LCAS）アドバンスト ファシリテーター 2023.3.12（東京：Web研修会）
3. 西日本新聞 「医療・いのち」コラム 小児がん経験者、6割が晩期合併症.（大園秀一 掲載）2023.5.8
4. 大園秀一. 厚生労働省委託事業 小児血液・がん学会主催 令和5年度1回 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会（LCAS）講師 2023.7.22（津市：Web研修会）
5. 朝日新聞 医療コラム 去らないほほ笑みを共に ～小児ガンで子を失った家族ら～（星まつりの記事：木曜会及び血液グループ、小児病棟看護師を取材）2023.8.8
6. 大園秀一. 厚生労働省委託事業 小児血液・がん学会主催 令和5年度2回 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会（LCAS）講師 2023.9.2（東京：Web研修会）

消化器

－論文－

1. Kato K, Umetsu S, Togawa T, Ito K, Kawabata T, Arinaga-Hino T, Tsumura N, Yasuda R, Mihara Y, Kusano H, Ito S, Imagawa K, Hayashi H, Inui A, Yamashita Y, Mizuochi T. Clinicopathologic Features, Genetics, Treatment, and Long-Term Outcomes in Japanese Children and Young Adults with Benign Recurrent Intrahepatic Cholestasis: A Multicenter Study. J Clin Med. 2023 Sep 15;12(18):5979.
2. Yasuda R, Arai K, Kudo T, Nambu R, Aomatsu T, Abe N, Kakiuchi T, Hashimoto K, Sogo T, Takahashi M, Etani Y, Kato K, Yamashita Y, Mitsuyama K, Mizuochi T. Serum leucine-rich alpha-2 glycoprotein and calprotectin in children with inflammatory bowel disease: A multicenter study in Japan. J Gastroenterol Hepatol. 2023 Jul;38(7):1131-1139.
3. Mizuochi T, Takei H, Nittono H, Kimura A. Inborn Errors of Bile Acid Metabolism in Japan. Pediatr Int. 2023 Jan;65(1):e15490.
4. Mizuochi T, Iwama I, Inui A, Ito Y, Takaki Y, Mushiaki S, Tokuhara D, Ishige T, Ito K, Murakami J, Hishiki H, Mikami H, Bessho K, Kato K, Yasuda R, Yamashita Y, Tanaka Y, Tajiri H. Real-world efficacy and safety of glecaprevir/pibrentasvir in Japanese adolescents with chronic hepatitis C: a prospective multicenter

study. J Gastroenterol. 2023 Apr;58(4):405-412.

5. Nambu R, Kudo T, Tachibana N, Shimizu H, Mizuochi T, Kato S, Inoue M, Kumagai H, Ishige T, Kunisaki R, Noguchi A, Yodoshi T, Hagiwara SI, Nishimata S, Kakuta F, Saito T, Iwama I, Hirano Y, Shimizu T, Arai K; JPIBD-R network. Prognosis of pediatric ulcerative colitis after infliximab failure: A multicenter registry-based cohort study. J Gastroenterol Hepatol. 2023 Dec 6. doi: 10.1111/jgh.16431. Online ahead of print.
6. Hagiwara SI, Abe N, Hosoi K, Hara T, Ishige T, Shimizu H, Mizuochi T, Kakiuchi T, Kunisaki R, Matsuoka R, Kondou H, Kakuta F, Nakayama Y, Kimura T, Maeyama T, Honma H, Hirano D, Saruta M, Yoshida T, Okayasu I, Etani Y. Utility of a rapid assay for prostaglandin E-major urinary metabolite as a biomarker in pediatric ulcerative colitis. Sci Rep. 2023 Jun 19;13(1):9898.
7. Yokoyama K, Yamamoto Y, Nambu R, Hagiwara SI, Abukawa D, Mizuochi T, Kudo T, Sado T, Iwata N, Ishige T, Iwama I, Kumagai H, Arai K, Shimizu T. Safety and efficacy of vedolizumab in pediatric patients with ulcerative colitis: multicenter study in Japan. J Gastroenterol Hepatol. 2023 Jul;38(7):1107-1115.
8. Nambu R, Arai K, Kudo T, Murakoshi T, Kunisaki R, Mizuochi T, Kato S, Kumagai H, Inoue M, Ishige T, Saito T, Noguchi A, Yodoshi T, Hagiwara SI, Iwata N, Nishimata S, Kakuta F, Tajiri H, Hiejima E, Toita N, Mochizuki T, Shimizu H, Iwama I, Hirano Y, Shimizu T; JPIBD-R. Clinical outcome of ulcerative colitis with severe onset in children: a multicenter prospective cohort study. J Gastroenterol. 2023 May;58(5):472-480.
9. Ishige T, Shimizu T, Watanabe K, Arai K, Kamei K, Kudo T, Kunisaki R, Tokuhara D, Naganuma M, Mizuochi T, Murashima A, Inoki Y, Iwata N, Iwama I, Koinuma S, Shimizu H, Jimbo K, Takaki Y, Takahashi S, Cho Y, Nambu R, Nishida D, Hagiwara SI, Hikita N, Fujikawa H, Hosoi K, Hosomi S, Mikami Y, Miyoshi J, Yagi R, Yokoyama Y, Hisamatsu T. Expert consensus on vaccination in patients with inflammatory bowel disease in Japan. J Gastroenterol. 2023 Feb;58(2):135-157.

—著書・総説—

1. 津村直弥, 安田亮輔, 水落建輝. 【小児の治療方針】消化器 吸収不全症候群, 難治性下痢症. 小児科診療 2023 ; 86 : 630-633.
2. 加藤 健, 水落建輝. 【エキスパートが教える小児の薬物治療】消化器疾患 潰瘍性大腸炎. 小児内科 2023 ; 55 : 493-497.
3. 加藤 健, 水落建輝. 【小児臨床検査ガイド】便検査 消化吸収試験. 文光堂 2023 ; 3 : 654-657.
4. 安田亮輔, 水落建輝. 【分子標的薬を極める】炎症性腸疾患 潰瘍性大腸炎. 小児内科 2023 ; 55 : 245-249.
5. 安田亮輔, 水落建輝. 特集 知っておきたい小児炎症性腸疾患 (IBD) IBDとは. 小児科診療 2023 ; 86 : 363-366.
6. 高木祐吾, 水落建輝, 神園淳司. 炎症性腸疾患. 小児救急標準テキスト basic編 中外医学社 2023 : 178-180.

—講演・シンポジウム・セミナー—

—国内学会・研究会

1. 水落建輝. 特別講演 こどものおなかの病気を科学する. 第193回日本小児科学会和歌山地方会. 2023.2.18 (Hybrid, 和歌山)
2. 水落建輝. ランチョンセミナー11 小児思春期IBDにおける低亜鉛血症の現状. 第109回日本消化器病学会. 2023.4.6-8 (Hybrid, 長崎)

3. 水落建輝, 虻川大樹, 清水泰岳, 新井勝大, 清水俊明, 分野別シンポジウム4 小児炎症性腸疾患の診断と治療Update. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (Hybrid, 東京)
4. 水落建輝. ランチョンセミナー8 C型肝炎の母子感染と小児期の完治を目指せる新規治療薬. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2023.7.19-11 (Hybrid, 名古屋)
5. 水落建輝. 特別講演 小児肝疾患の最近の話題～乳児胆汁うっ滞症の鑑別と小児C型肝炎の治療～. 第38回神奈川県小児肝・消化器疾患研究会. 2023.8.26 (横浜)
6. 水落建輝. ランチョンセミナー2 胆道閉鎖症と新生児胆汁うっ滞症の最新知見. 第39回日本小児外科学会秋季シンポジウム/PSJM (Pediatric Surgery Joint Meeting) 2023. 2023.10.26 (Hybrid, 福岡)
7. 水落建輝. 特別講演 こどものおなかの病気を科学する～小児消化器疾患のトピックスとC型肝炎の治療～. 宮城県小児科医会・仙台市小児科医会 学術講演会. 2023.11.17 (Web, 仙台)
8. 水落建輝, 清水泰岳, 新井勝大, 虻川大樹, 清水俊明, 長沼 誠, 渡辺憲治, 中村志郎, 久松理一. パネルディスカッション1 小児IBD治療指針の作成～厚労科研調査研究班における小児診療科と成人診療科の連携～. 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 2023.12.1-2 (神戸)

ー企業主催講演会

1. 水落建輝. 小児C型肝炎に対するDAA治療の現状. アップヴィインターネットライブセミナー. 2023.4.26 (Web)
2. 水落建輝. こどものおなかの病気を科学する～小児消化器肝臓病の最新知見～. 第3回広島小児消化器疾患セミナー. 2023.4.28 (Hybrid, 広島)
3. 水落建輝. 小児思春期IBDにおけるLRGの有用性. LRG update セミナー. 2023.8.10 (Web)
4. 水落建輝. Wilson病の診断・治療と移行期医療. Wilson病Seminar. 2023.8.18 (Web)
5. 水落建輝. 子どものC型肝炎は完治を目指せる時代に. アップヴィインターネットライブセミナー. 2023.10.25 (Web, 名古屋)
6. 水落建輝. 小児IBDの特徴と治療. 日本化薬株式会社社員向け講演会. 2023.12.7 (久留米)

(メディア)

1. 水落建輝. 希少疾病ライブラリ 先天性胆汁酸代謝異常症. Care Net (Web), 2023.6.29 公開

ー学会・研究会演題ー

ー国際学会

1. Kato K, Umetsu S, Togawa T, Ito K, Kawabata T, Arinaga-Hino T, Tsumura N, Yasuda R, Mihara Y, Kusano H, Ito S, Imagawa K, Hayashi H, Inui A, Yamashita Y, Mizuochi T. Clinical, genetic, and pathologic features, treatment, and long-term outcome in patients with benign recurrent intrahepatic cholestasis: a multicenter study in Japan. The Liver Meeting 2023. 2023.11.10-14 (Boston, USA)

ー国内学会

1. 水落建輝, 岩間 達, 乾あやの, 伊藤嘉規, 高木祐吾, 虫明聡太郎, 徳原大介, 石毛 崇, 伊藤孝一, 村上潤, 菱木はるか, 三上 仁, 別所一彦, 加藤 健, 安田亮輔, 山下裕史朗, 田尻 仁. C型肝炎の思春期患者に対する直接作用型抗ウイルス薬が肝機能と成長に与える影響: 前方視的多施設研究. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (Hybrid, 東京)
2. 安田亮輔, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河 剛, 高橋美

智子, 恵谷ゆり, 加藤 健, 山下裕史朗, 水落建輝. 小児炎症性腸疾患の活動性評価における血清LRGと血清カルプロテクチンの有用性: 多施設共同研究. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (Hybrid, 東京)

3. 津村直弥, 水落建輝, 安田亮輔, 加藤 健, 坂口廣高, 白濱裕子, 高木祐吾, 高瀬隆太, 福井香織, 渡邊順子, 山下裕史朗. 乳幼児期からの貧血と便潜血陽性を契機に診断に至ったCowden症候群/PTEN過誤腫症候群の小児例. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (Hybrid, 東京)
4. 笹栗 誠, 水落建輝, 津村直弥, 加藤 健, 安田亮輔, 坂口廣高, 白濱裕子, 山下裕史朗. 小児炎症性腸疾患におけるウステキヌマブの有用性: 単施設の経験. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (Hybrid, 東京)
5. 加藤 健, 津村直弥, 安田亮輔, 水落建輝. 小児炎症性腸疾患におけるメサラジン不耐症とチオプリン不耐症の関連性. 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2023.10.20-22 (Hybrid, 仙台)
6. 津村直弥, 加藤 健, 安田亮輔, 水落建輝. 当院で新規診断した小児の消化管ポリープ・ポリポーシスの臨床像. 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2023.10.20-22 (Hybrid, 仙台)
7. 吉田正司, 南部隆亮, 清水泰岳, 工藤孝広, 立花奈緒, 水落建輝, 加藤沢子, 岩田直美, 熊谷秀規, 岩間達, 清水俊明, 新井勝大. 小児炎症性腸疾患におけるチオプリン製剤の副作用 日本小児IBDレジストリ研究. 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2023.10.20-22 (Hybrid, 仙台)
8. 萩原真一郎, 神保圭佑, 南部隆亮, 水落建輝, 梶恵美里, 垣内俊彦, 肥塚慶之助, 前山隆智, 大沼真輔, 川井正信, 恵谷ゆり. 小児炎症性腸疾患におけるレミチェックQを用いた血中インフリキシマブトラフ濃度の検討 多施設共同研究. 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2023.10.20-22 (Hybrid, 仙台)
9. 中野 聡, 鈴木光幸, 水落建輝, 別所一彦, 恵谷ゆり, 田尻 仁. C型肝炎母子感染例の自然歴に関する検討. 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2023.10.20-22 (Hybrid, 仙台)
10. 宮沢絢子, 南部隆亮, 新井勝大, 工藤孝広, 石毛 崇, 熊谷秀規, 萩原真一郎, 梶恵美里, 水落建輝, 倉沢伸吾, 角田文彦, 岩間 達. 小児潰瘍性大腸炎直腸炎型の自然歴と治療法の検討. 第50回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会. 2023.10.20-22 (Hybrid, 仙台)
11. 津村直弥, 加藤 健, 安田亮輔, 吉岡慎一郎, 竹田津英稔, 水落建輝. 小児炎症性腸疾患に対するインフリキシマブの長期予後. 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 2023.12.1-2 (神戸)
12. 宮沢絢子, 南部隆亮, 清水泰岳, 工藤孝広, 西澤拓哉, 熊谷秀規, 萩原真一郎, 梶恵美里, 水落建輝, 倉沢伸吾, 角田文彦, 石毛 崇, 岩間 達, 新井勝大. 小児潰瘍性大腸炎直腸炎型の自然歴と予後因子の検討. 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 2023.12.1-2 (神戸)
13. 萩原真一郎, 神保圭佑, 南部隆亮, 水落建輝, 梶恵美里, 垣内俊彦, 肥塚慶之助, 前山隆智, 大沼真輔, 川井正信, 恵谷ゆり. 小児炎症性腸疾患におけるレミチェックQを用いた血中インフリキシマブトラフ濃度の検討: 多施設共同研究. 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 2023.12.1-2 (神戸)

ー研究会・地方会

1. 安田亮輔, 津村直弥, 加藤 健, 坂口廣高, 白濱裕子, 水落建輝. 小児IBDにおける5-ASA不耐症. 第27回筑後IBDセミナー. 2023.2.15 (Hybrid, 久留米)
2. 笹栗 誠, 赤木佑一郎, 加藤 健, 津村直弥, 安田亮輔, 水落建輝. 当院の小児IBDにおけるベドリズマブとウステキヌマブの使用状況. 第23回日本小児IBD研究会. 2023.3.4-5 (Hybrid, 久留米)
3. 安田亮輔, 新井勝大, 工藤孝広, 南部隆亮, 青松友槻, 阿部直紀, 垣内俊彦, 橋本邦生, 十河 剛, 高橋美

智子, 恵谷ゆり, 加藤 健, 山下裕史朗, 光山慶一, 水落建輝. 小児炎症性腸疾患の活動性評価における血清LRGと血清カルプロテクチンの有用性の比較: 多施設共同研究. 第23回日本小児IBD研究会. 2023.3.4-5 (Hybrid, 久留米)

4. 森田 俊, 吉岡慎一郎, 竹田津英稔, 鶴田耕三, 桑木光太郎, 加藤 健, 安田亮輔, 水落建輝, 光山慶一, 川口 巧. 小児における大腸内視鏡検査の重要性. 第23回日本小児IBD研究会. 2023.3.4-5 (Hybrid, 久留米)
5. 清水泰岳, 南部隆亮, 村越孝次, 国崎玲子, 工藤孝広, 加藤沢子, 水落建輝, 熊谷秀規, 井上幹大, 後藤友梨, 新井勝大, 清水俊明. 日本小児IBDレジストリにおける小児期発症IBD患者における成長障害の検討. 第23回日本小児IBD研究会. 2023.3.4-5 (Hybrid, 久留米)
6. 西田大恭, 石毛 崇, 新井勝大, 清水泰岳, 岩間 達, 南部隆亮, 国崎玲子, 水落建輝, 村越孝次, 齋藤武, 加藤沢子, 工藤孝広, 岩田直美, 井上幹大, 吉年俊文, 萩原真一郎, 戸板成昭, 田尻 仁, 望月貴博, 角田文彦. 小児クローン病患者における生物学的製剤の継続率の比較 (日本小児IBDレジストリ研究). 第23回日本小児IBD研究会. 2023.3.4-5 (Hybrid, 久留米)
7. 石毛 崇, 新井勝大, 清水泰岳, 岩間 達, 南部隆亮, 国崎玲子, 水落建輝, 村越孝次, 齋藤武, 加藤沢子, 工藤孝広, 岩田直美, 井上幹大, 吉年俊文, 萩原真一郎, 戸板成昭, 田尻 仁, 望月貴博, 角田文彦, 清水俊明. 小児クローン病患者に対する診断後早期の治療内容 小児IBDレジストリ解析. 第23回日本小児IBD研究会. 2023.3.4-5 (Hybrid, 久留米)
8. 日衛嶋栄太郎, 仁平寛士, 村本雄哉, 新井勝大, 工藤孝広, 岩間 達, 水落建輝, 十河 剛, 梶恵美里, 清水泰岳, 竹内一郎, 伊藤夏希, 安田亮輔, 乾あやの, 恵谷ゆり, 西小森隆太, 八角高裕, 井澤和司, 塩川雅広, 滝田順子. 小児潰瘍性大腸炎の診断におけるIntegrin $\alpha v \beta 6$ 自己抗体の有用性に関する多施設共同研究. 第23回日本小児IBD研究会. 2023.3.4-5 (Hybrid, 久留米)
9. 萩原真一郎, 神保圭佑, 南部隆亮, 水落建輝, 梶恵美里, 垣内俊彦, 肥塚慶之助, 前山隆智, 大沼真輔, 川井正信, 恵谷ゆり. 小児炎症性腸疾患におけるレミチェックQを用いた血中インフリキシマブトラフ濃度の検討 多施設共同研究. 第23回日本小児IBD研究会. 2023.3.4-5 (Hybrid, 久留米)
10. 津村直弥, 加藤 健, 安田亮輔, 水落建輝. ステロイドが奏効したヒトメタニューモウイルス感染に伴う胆汁うっ滞症の幼児例. 第39回日本小児肝臓研究会. 2023.7.15-16 (横浜)
11. 中村優也, 津村直弥, 加藤 健, 北城恵史郎, 日吉祐介, 田中征治, 西小森隆太, 水落建輝, 山下裕史朗. 消化器症状に乏しかった好酸球性消化管疾患に伴う蛋白漏出性胃腸症の乳児例. 第523回日本小児科学会福岡地方会例会. 2023.12.9 (Hybrid, 福岡)

—受賞・獲得研究費—

1. 安田亮輔. 小児炎症性腸疾患の活動性評価における血清LRGと血清カルプロテクチンの有用性の比較: 多施設共同研究. 第23回日本小児IBD研究会 優秀演題賞
2. 水落建輝 (研究代表者). 文科省科学研究費 基盤研究C「小児期発症自己免疫性肝疾患の新規バイオマーカーと病因遺伝子の探索」. 2021～23年度 429万円 (2023年度 39万円).
3. 水落建輝 (研究分担者). AMED 田尻班「小児のウイルス性肝炎の経過及び治療選択に関する研究」. 2023年度. 39万円.
4. 水落建輝 (研究分担者). 厚労省科研 田口班「希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築」. 2023年度 20万円.

腎泌尿器

—論文—

1. Kurata S, Nawata A, Morinishi T, Ohta K, Katafuchi E, Hisano S, Tanaka S, Hisaoka M, Koike J, Nishikomori R, Nakayama T. Immunoglobulin G deposition on proximal tubules and the tubular basement membrane in acute tubular injury complicated with focal segmental glomerulosclerosis (FSGS): A possible prediction tool for subclinical FSGS. *Ann Diagn Pathol.* 2023;66:152154.
2. Nozu K, Sako M, Tanaka S, Kano Y, Ohwada Y, Morohashi T, Hamada R, Ohtsuka Y, Oka M, Kamei K, Inaba A, Ito S, Sakai T, Kaito H, Shima Y, Ishikura K, Nakamura H, Nakanishi K, Horinouchi T, Konishi A, Omori T, Iijima K. Rituximab in combination with cyclosporine and steroid pulse therapy for childhood-onset multidrug-resistant nephrotic syndrome: a multicenter single-arm clinical trial (JSKDC11 trial). *Clin Exp Nephrol.* 2023.

【和文】

1. 木村 拓, 田中征治, 日吉祐介, 荒木潤一郎, 西小森隆太, 山下裕史朗. EBウイルス腸炎による持続する下痢を初発症状とした腎移植後リンパ増殖症の女児例. *久留米医学会雑誌.* 2023.86(5-6):P131-138.
2. 西小森隆太, 井手水紀, 田中征治. 【SLEとAAVの新展開】SLEと先天性免疫異常症. *腎と透析.* 2023;94(6):892-897. DOI: 10.24479/kd.0000000767
3. 井手迫俊彦, 田中征治, 山口孝則, 郭 義胤, 野口 満, 大塚泰史, 三股浩光, 酒井英樹, 上村敏雄, 此元隆雄, 中川昌之, 宮里 実. 小児間欠性水腎症の手術時期についての検討. *西日本泌尿器科.* 2023;85(4):190-195.
4. 財津亜友子, 濱崎祐子, 簀田志帆, 橋本淳也, 青木裕次郎, 宍戸清一郎, 酒井 謙. 小児腎移植患者におけるSARS-CoV-2ワクチン接種後抗体価の推移と副反応. *小児腎不全会誌.* 2023;43:75-78.

—著書—

1. 財津亜友子, 濱崎祐子. 特集 腎・泌尿器疾患-血尿から移植まで 先天性ネフローゼ症候群. *小児内科.* 2023-7;55(77):1158-1162.
2. 財津亜友子, 濱崎祐子. 病因・病態生理から読み解く 腎・泌尿器疾患のすべて 先天性ネフローゼ症候群. *腎と透析.* 2023;95(増刊号):64-66.
3. 荒木潤一郎, 小児IgA血管炎診療ガイドライン作成委員. 編. 小児IgA血管炎診療ガイドライン2023. 診断と治療社. 2023.
4. 荒木潤一郎, 田中征治. I.総論 8.薬物代謝・排泄能に異常があるときの薬剤投与の注意点. エキスパートが教える小児の薬物治療. *小児内科.* 2023;55(増刊):51-57.
5. 倉田悟子. 小児IgA血管炎診療ガイドライン作成委員. 編. 小児IgA血管炎診療ガイドライン2023. 診断と治療社. 2023.

—講演・シンポジウム—

— 1. 国際学会

なし

— 2. 国内学会

1. 田中征治. 『まかせなさい!小児尿路結石』まかせなさい!小児尿路結石の内科的診療. 第32回日本小児泌尿器科学会学術集会総会. 2023.7.20(兵庫)

2. 田中征治. 他職種による腎不全マネジメント～小児科医の立場から～. 第44回日本小児腎不全学会学術集会 2023.12.1 (佐賀)

3. 財津亜友子. ワークショップ3「拝啓 外科医殿 これだけは押さえてください」小児尿路感染症『急性期治療』. 第32回日本小児泌尿器科学会学術集会総会. 2023.7.20 (兵庫)

－ 3. 研究会・学会地方会

1. 田中征治. 夜尿診療において専門医が果たす役割 夜尿症診療 ステップアップセミナー web 2023.2.20

2. 田中征治. 小児頻尿・尿失禁のケアを考えるオンラインセミナー 小児排尿障害 オーバービュー ファイザー医学教育プロジェクト助成プログラム .2023.3.11 web

3. 田中征治. 明日から役立つ子供の腎・泌尿器疾患への対応 大牟田医師会 2023.3.14 福岡

4. 田中征治. 夜尿と昼間尿失禁 宗像医師会 2023.6.15 福岡

5. 田中征治. 夜尿症の診療と治療 ファイザー医学教育プロジェクト助成プログラム 2023.10.21 web

6. 田中征治. 脱水が及ぼす影響 大塚製薬工場 社内講演 2023.11.28 web

8. 田中征治. 当科におけるSLE患者の感染症. 第3回kurume SLE Seminar 2023.12.21 福岡

－学会・研究会－

－ 1. 国際学会

なし

－ 2. 国内学会

1. 田中征治, 倉田悟子, 小松誠和, 荒木潤一郎, 井手水紀, 日吉祐介, 財津亜友子, 西小森隆太. 間質性腎炎ブドウ膜炎症候群 (TINU) における腎組織とTNF α の関係 第58回日本小児腎臓病学会. 2023.6.29-30 (大阪)

2. 財津亜友子, 濱崎祐子, 簗田志帆, 橋本淳也, 青木裕次郎, 穴戸清一郎, 酒井 謙. 腎移植患児のSARS-CoV-2ワクチン接種後抗体価の推移. 第56回日本臨床腎移植学会. 2023.2.11 (東京)

3. 東 陽三, 向井純平, 日吉祐介, 荒木潤一郎, 田中征治, 西小森隆太, 山下裕史朗. 抗原凝集抗体で診断した腸管出血性大腸菌O121感染に伴う溶血性尿毒症症候群(HUS). 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (東京)

4. 茂藤優司, 日吉祐介, 荒木潤一郎, 財津亜友子, 田中征治. 体重増加不良から診断した遠位尿細管性アシドーシス (distal renal tubular acidosis:dRTA). 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (東京)

5. 荒木潤一郎 (久留米大学病院 小児科), 日吉祐介, 田代恭子, 高瀬隆太, 福井香織, 田中征治, 渡邊順子. 小児原発性高シュウ酸尿症の診断における尿ガスクロマトグラフィ/質量分析 (尿GC/MS分析) の有用性. 第126回日本小児科学会学術集会. 2023.4.14-16 (東京)

6. 井手水紀, 北城恵史郎, 田中征治, 日高由紀子, 井田弘明, 武井修治, 西小森隆太. 小児期発症の全身性強皮症の2例. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2023.4.24-26 (福岡)

7. 日吉祐介, 荒木潤一郎, 田中征治, 小松誠和. 抗リツキシマブ抗体陽性の難治性ステロイド依存性ネフローゼ症候群 (SDNS) に対する新規治療戦略. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会. 2023.6.29-7.1 (大阪)

8. 荒木潤一郎, 北城恵史郎, 日吉祐介, 倉田悟子, 田中征治. IgA腎症との鑑別を要したIgA優位沈着性感染

関連糸球体腎炎の一例. 第58回日本小児腎臓病学会学術集会. 2023.6.29-7.1 (大阪)

9. 日吉祐介, 北城恵史郎, 荒木潤一郎, 田中征治, 下川尚子. ウロダイナミクス (UDS) で膀胱機能評価を行った脊髄疾患10例. 第32回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2023.7.19-21 (神戸)
10. 日吉祐介, 井手水紀, 荒木潤一郎, 田中征治, 西小森隆太. 当院におけるサイレントループス腎炎の臨床経過. 第32回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2023.10.13-15 (埼玉)
11. 北城恵史郎, 日吉祐介, 井手水紀, 荒木潤一郎, 田中征治, 西小森隆太. 当院におけるサイレントループス腎炎の臨床経過. 第32回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2023.10.13-15 (埼玉)

－ 3. 研究会・学会地方会

1. 北城恵史郎, 日吉祐介, 井手水紀, 田中征治, 西小森隆太. 当院におけるサイレントループス腎炎の臨床経過. 第36回九州小児ネフロロジー研究会学術集会. 2023.8.26-27 (沖縄)
2. 末継智士, 山口璃紗, 徳富謙太郎, 北城恵史郎, 日吉祐介, 田中征治, 木村拓郎, 古賀木綿子, 海野聡子, 西岡淳子, 西小森隆太, 山下裕史朗. 尿糖陽性を契機に診断しえた急性尿細管間質性腎炎. 第522回日本小児科学会福岡地方会例会. 2023.9.10 (福岡)

－ 受賞 －

1. 北城恵史郎 若手奨励賞 第36回九州小児ネフロロジー研究会学術集会. 2023.8.26-27 (沖縄)
2. 日吉祐介 優秀演題賞 第58回日本小児腎臓病学会学術集会. 2023.6.29-7.1 (大阪)
3. 田中征治 優秀演題賞 第58回日本小児腎臓病学会. 2023.6.29-30 (大阪)

新生児

－ 論文 －

1. Miyoshi T, Maeno Y, Matsuda T, Ito Y, Inamura N, Kim KS, Shiraishi I, Kurosaki K, Ikeda T, Sago H, and Collaborators, on behalf of the Japan Fetal Arrhythmia Group. Neurodevelopmental outcome after antenatal therapy for fetal supraventricular tachyarrhythmia: 3-year follow-up of multicenter trial. *Ultrasound Obstet Gynecol* 2023; 61: 49-58. doi: 10.1002/uog.26113. PMID: 36350016
2. So K, Shinagawa T, Yoshizato T, Fukahori S, Asagiri K, Maeno Y, Hayashida S, Ushijima K. Difficulty in the diagnosis of biliary atresia splenic malformation syndrome in utero. *Kurume Med J.* 2023 Sep 25;68(3.4):265-268. doi: 10.2739/kurumemedj.MS6834011. PMID: 37380446
3. 大津生利衣, 木下正啓, 嶽間澤昌史, 七種 護, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 呼吸障害により搬送された新生児における搬送依頼のタイミングと呼吸管理期間との関連. 単施設後方視的コホート研究. *日本周産期・新生児医学会雑誌.* 2023; 59: 330-335
4. 長井孝太, 木下正啓, 三宅 淳, 多々良一彰, 屋宮清仁, 後藤憲志. 気道確保の処置を契機に *Streptococcus agalactiae* による肺炎と敗血症を呈した遅発性侵襲性感染の早産児例. *小児感染免疫.* 2023; 35(4)

－ 著書 －

1. 前野泰樹. 胎児心臓の機能検査: 胎児不整脈. 豊富な所見で診断の進め方がわかる. 産婦人科 画像診断アトラス 医学書院 臨床婦人科産科. 2023:77
2. 前野泰樹. 脈拍の異常と不整脈. お母さんと赤ちゃんの生理とフィジカルアセスメント メディカ出版 ペリネイタルケア. 2023; 568: 201-210

ー特別講演・シンポジウムー

ー国際学会

1. Maeno Y. Arrhythmias in the ICU; Controversies in the management of fetal SVT. 8th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. 2023.8.27-9.1 (Washington, US)

ー海外招待講演

1. Maeno Y. The Role of 'Division for Patient Safety' in St. Mary's Hospital. Quality Management Safety Forum. Thai Nguyen National Hospital. 2023.11.17 (Thai Nguyen, Vietnam)

ー国内学会・研究会

1. 木下正啓. ビデオ音声通話アプリケーションを用いた地方基幹病院への遠隔支援. 周産期新生児遠隔医療研究会. 2023.2.11 (久留米)
2. 海野光昭. 周産期X遠隔医療=⊗ Perinatal Medicine Ver.3.0 新生児成育セミナー九州. 2023.3.4 (福岡)
3. 前野泰樹. 四腔断面像によるCHDスクリーニング：実践編. 第7回 九州・山口胎児心臓研究会. 2023.6.17 (Web)
4. 海野光昭. シンポジウム「新生児搬送のこれから」第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2023.7.9-11 (名古屋)
5. 前野泰樹. 新ガイドラインでは、スクリーニングに「流出路チェック」のみならず、最強の武器「カラードプラ」の使用も許してくれました. 第34回広島産婦人科超音波研究会. 2023.8.3 (Web, 広島)
6. 前野泰樹. 胎児心エコースクリーニングに始まる心臓病の周産期管理：胎児心エコー認証医の役割. 第123回九州医師会医学会, 第3分科会, 産婦人科学会. 2023.11.26 (長崎)
7. 前野泰樹. 抗SSA抗体陽性母体児の管理. 胎児心エコーレベル2講習会. 2023.12.17 (Web, 東京)

ー学会・研究会ー

ー国内学会

1. 大島菜那子, 大武瑞樹, 吉田愛梨, 嶽間澤昌史, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 嘔吐による新生児搬送：当院へ搬送された62例の検討. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 2023.7.9-11 (名古屋)
2. 寺町陽三, 前野泰樹, 津田恵太郎, 高瀬隆太, 籠手田雄介, 須田憲治. 心筋の前収縮期運動と房室弁閉鎖の時相差での心機能評価：Dual Doppler法を用いて. 第29回日本胎児心臓病学会学術集会. 2023.2.24.25 (大阪)
3. 寺町陽三, 前野泰樹, 津田恵太郎, 高瀬隆太, 籠手田雄介, 須田憲治. 胎児心エコーにおける心筋の前収縮期運動と房室弁閉鎖の時相差との心機能との比較：Dual Doppler法を用いて. 第59回日本小児循環器学会学術集会. 2023.7.6-8 (横浜)
4. 三好剛一, 稲村 昇, 堀米仁志, 与田仁志, 金 基成, 高橋邦彦, 寺町陽三, 豊島勝昭, 白石 公, 黒崎健一, 前野泰樹 (日本胎児不整脈班). 胎児心エコーにおける心筋の前収縮期運動と房室弁閉鎖の時相差との心機能との比較：Dual Doppler法を用いて. 第59回日本小児循環器学会学術集会. 2023.7.6-8 (横浜)

ー研究会・学会地方会

1. 久保雄太郎, 緑川浩子, 中村美彩, 嶽間沢昌史, 七種 護, 原 直子, 木下正啓. 気管挿管処置で誤嚥性肺炎を呈した *Streptococcus agalactiae* 保菌者の1例. 第78回九州新生児研究会. 2023.6.3 (宮崎)
2. 村上歌奈子, 石橋麗王奈, 久原宏美, 井上悠香里, 古賀澄江, 斉藤由香, 海野光昭, 原田英明, 前野泰樹. 看護師による新生児搬送の現状と課題. 第79回九州新生児研究会. 2023.11.11 (山口)